

登録コード	L1641101	開講年度	2026				
担当教員	岡本 卓也			副担当			
授業科目	心理学特殊実験Ⅰ (心理学実験)						
英文授業名	Psychology：Advanced ExperimentsⅠ						
授業タイトル	心理学特殊実験Ⅰ (心理学実験)						
単位数	2	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	金曜・4時限 金曜・5時限
講義室	人文204演習室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			⇔	【授業の達成目標】		
	2022Lカリ，2021Lカリ						
	【2022年度以前カリ対象】 自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力			⇔	身の回りのありふれた事柄や出来事について，社会心理学の研究知見に基づいて，科学的で独自の視点から考えることができるようになる。これにより，自明とされる事柄に対し，深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力が身に付くようになる		
	【2022年度以前カリ対象】 過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力			⇔	心理学の研究知見に対する知識を獲得し，自分自身の興味と関連付けて考えられるようになる。これにより，過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力が身に付くようになる		
	【2022年度以前カリ対象】 情報を適切に集約・分析・表現できる高度なメディアリテラシー			⇔	社会心理学の研究知見に基づいて，論文を読解し，他者に正しく伝えることができるようになる。これにより，情報を適切に集約・分析・表現できる高度なメディアリテラシーが身に付くようになる		
	2026Lカリ，2025Lカリ，2024Lカリ，2023Lカリ						
	【2023年度以降カリ対象】 人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			⇔	身の回りのありふれた事柄や出来事について，社会心理学の研究知見に基づいて，科学的で独自の視点から考えることができるようになる。これにより，人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身につくようになる		
	【2023年度以降カリ対象】 専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。【開拓力・企画発想能力】			⇔	社会心理学の研究知見に対する知識を獲得し，自分自身の興味と関連付けて考えられるようになる。また，心理学の研究知見に基づいて，論文を読解し，他者に正しく伝えることができるようになる。これにより，専門的学力を基盤とし，持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身につくようになる		
	授業で学べる「テーマ」	その他					
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	社会心理学における研究がいかに行われるか，その全体的な流れを学ぶ。授業の前半では様々なジャーナルに掲載された関連論文を読み，先行研究の知識を蓄える。その上で，自らの問題意識を整理し，リサーチ・クエスチョンとして表現し仮説にする。さらに，仮説を検証するためのデータ収集の方法を決定し，実験や調査のための手続きや質問紙を構成する。 このような一連の研究遂行をしていく中で，グループ・ディスカッションを行い，自らの問題のみに終始することなく，学んだことを全体の知としてフィードバックすることで，受講生相互に刺激を与え合う授業構成とする。						
授業計画	第1回：ガイダンス：社会心理学における研究とは 第2回：発表と討論(1) 第3回：発表と討論(2) 第4回：発表と討論(3) 第5回：発表と討論(4) 第6回：発表と討論(5) 第7回：発表と討論(6) 第8回：発表と討論(7) 第9回：仮説の設定(1)：自らの興味を整理し、リサーチ・クエスチョンとして表現する 第11回：仮説の設定(2)：リサーチ・クエスチョンに基づき、仮説を立てる 第12回：データ収集方法と具体的な実施手続きの決定 第13回：データ収集と解析の方法と具体的な実施手続きの決定 第14回：実験・調査の準備：実験手続きや質問紙の内容をまとめる 第15回：中間発表会・まとめ：ここまでの成果を発表する、授業アンケート 定期試験：なし						
成績評価の方法	授業への参加態度および論文発表の質（50％）と期末に課す中間発表（50％）により，社会心理学研究の実践方法の理解度を評価する。						
成績評価の基準	中間発表については，「問題」「目的」「方法」「結果」「考察」「引用文献」のそれぞれが明確に項目立てされており，各項目について以下のような内容が記述されていることが必要である。 1.問題・目的で，当該研究で何を問題・目的とするのが明確である 2.方法で，実験・調査の対象，手続き等の要点がもれなく説明されている 3.分析が，当該研究の仮説を検証するにあたって的確である 4.結果の予測が，実験・調査の内容に即して具体的に示されている						

成績評価の基準	5.引用文献が、所定の表記法（手引き参照）で記述されている 6.発表全体が、自分の発見などを人に伝えるための適切な形式になっている 以上の6項目すべてを満たし、かつ討論に積極的に参加していれば、「卓越している」、5項目を満たし、かつ討論に積極的に参加していれば、「かなり上にある」、4項目であり、かつ討論にやや積極的に参加していれば「やや上にある」、3項目であり、討論に参加していれば「その水準にある」と評価する。
事前事後学習の内容	自分が取り組む研究テーマについて、CiNiiやPsychINFOを用いて、広範に検索し、先行研究を見つける。その際、キーワードの設定の仕方を工夫するなどして、繰り返し検索し、自分の関心により近い論文を見つけることができるスキルを身につける。そのようにして見つけた論文を十分に読み、さらに、その論文に引用されている文献も芋づる式に読み、先行研究に関する知識を十分に蓄える。
履修上の注意	「心理学基礎実験I・II」及び「社会心理学基幹演習」を履修した者を対象とする。社会心理学分野で卒業論文を作成する者は、社会心理学分野のいずれかの教員によるこの授業を必ず受講すること。本授業では生成系AI（ChatGPT等）の利用を禁止しない。ただし、「思考の代行」としてではなく、「学習補助」としての利用に限定する。具体的には、文章の推敲、文献・事例の探索等に用いるにとどめ、自分の主張の核（問い、立場、論証）は必ず自分の頭をつかって構築すること。また、AIが提示した参考文献や知見には誤りが含まれる可能性がある。したがって、レポート等で論拠として挙げる文献については、AIの要約や二次情報のみに依拠せず、必ず原典（一次資料）を自分で入手して通読し、内容を理解した資料のみ引用・参照を認める。その上で、生成系AIを利用した場合は、利用箇所・用途を明記すること。以上（主張の中核を自ら構築すること、原典確認、利用箇所・用途の明記等）を満たさないまま提出したことが確認された場合、減点の対象、または不正行為として取り扱う場合がある。
質問、相談への対応	火曜の昼休みをオフィスアワーとするが、それ以外にもメールで事前連絡をしてもらえれば、個別に対応する。連絡先などについては、初回の授業中に伝える。
教科書	各自で、自らの研究テーマに沿った論文を収集し、関連する最新の文献を随時チェックすること。
参考書	授業中に適宜紹介する。